

再評価【番号16】

**海岸侵食対策事業
今津坂野海岸**

1. 海岸の概要

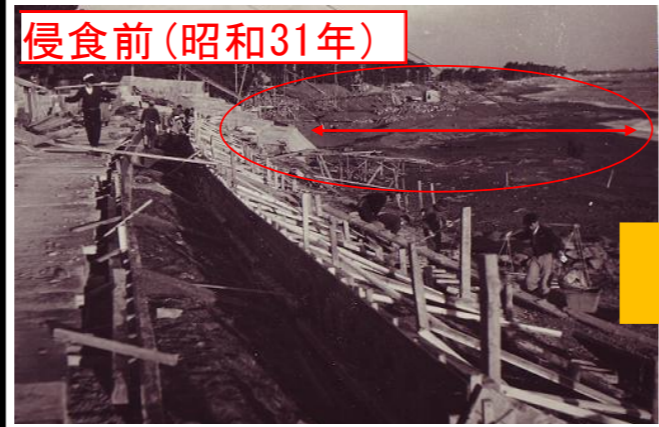
小松島市和田島町～阿南市那賀川町

海岸線延長 $L=6,637\text{m}$
(坂野地区 $3,320\text{m}$ 、今津地区 $3,317\text{m}$)

想定被害面積 $A=943\text{ha}$
(計画波浪再現確率 $1/50$)



明治40年～昭和47年の間に
最大約150m汀線後退



2. 事業概要

小松島市和田島町～阿南市那賀川町

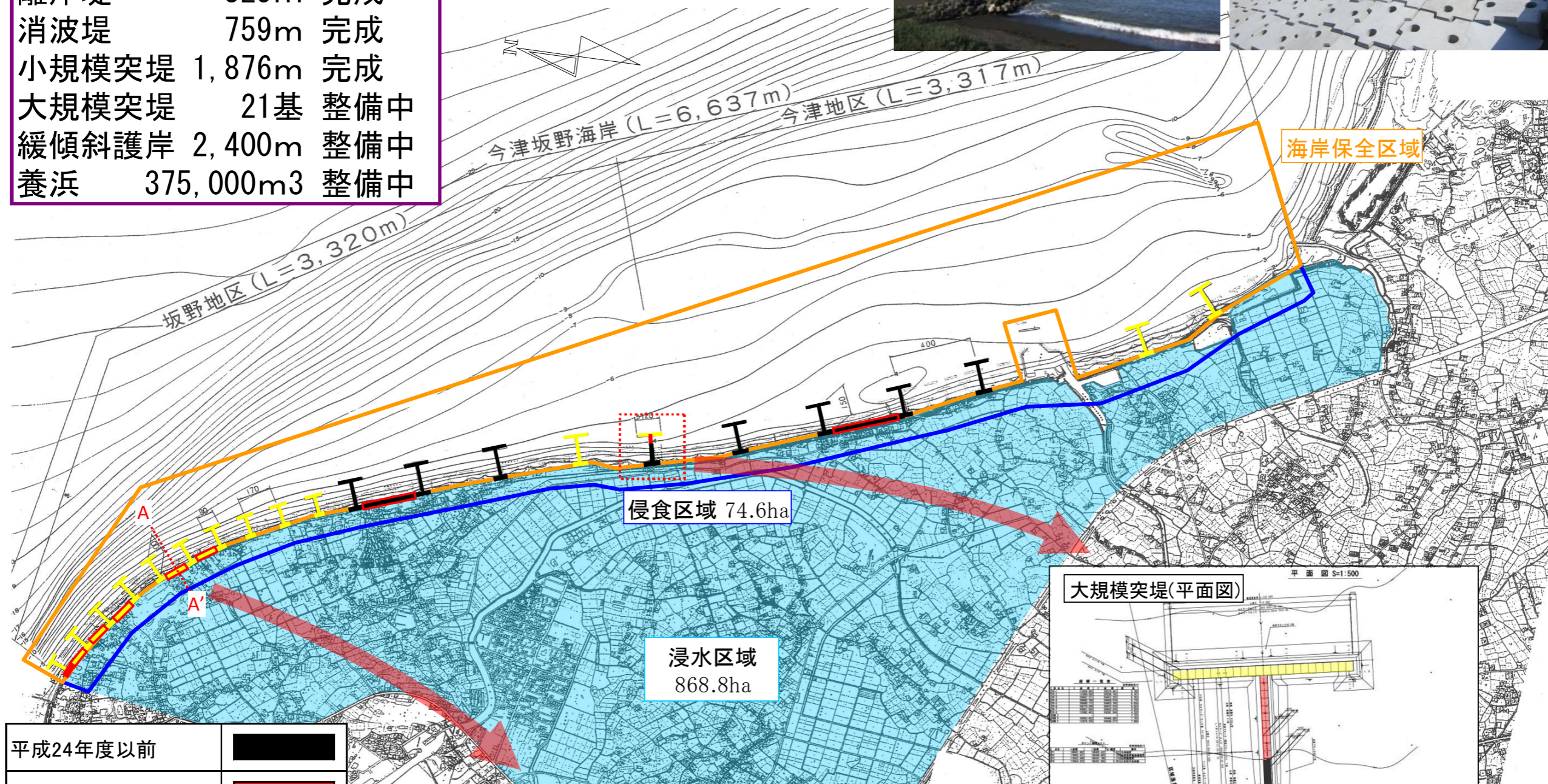
全体計画（昭和36年～）

堤防工	6,464m	完成
離岸堤	325m	完成
消波堤	759m	完成
小規模突堤	1,876m	完成
大規模突堤	21基	整備中
緩傾斜護岸	2,400m	整備中
養浜	375,000m ³	整備中

大規模突堤

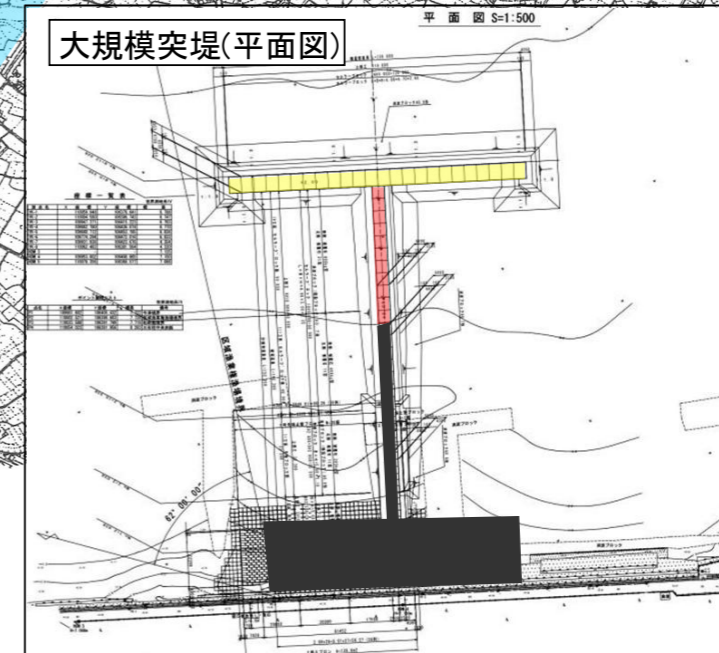
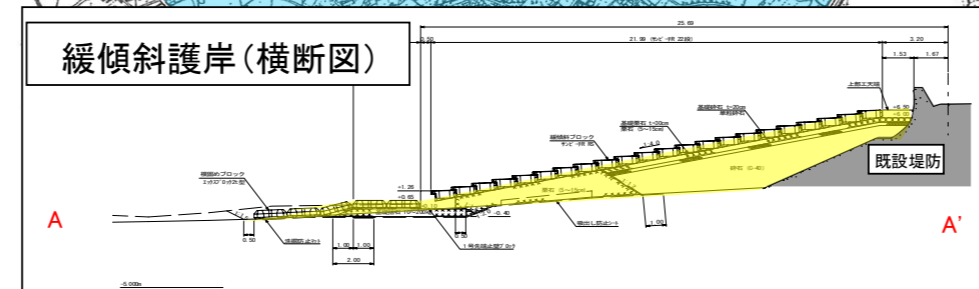


緩傾斜護岸



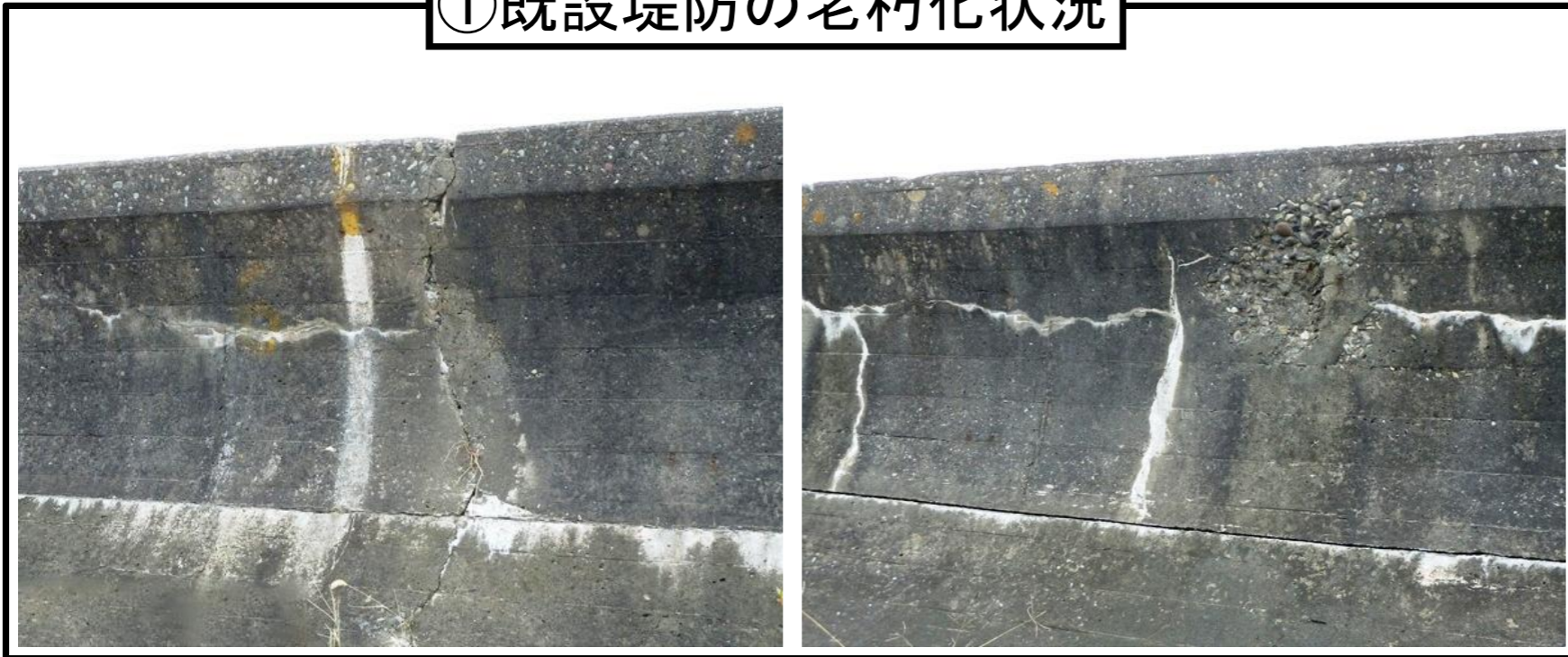
平成24年度以前	■
平成25年度	■
平成26年度以降	■

□ : 計画変更による緩傾斜護岸工の追加分

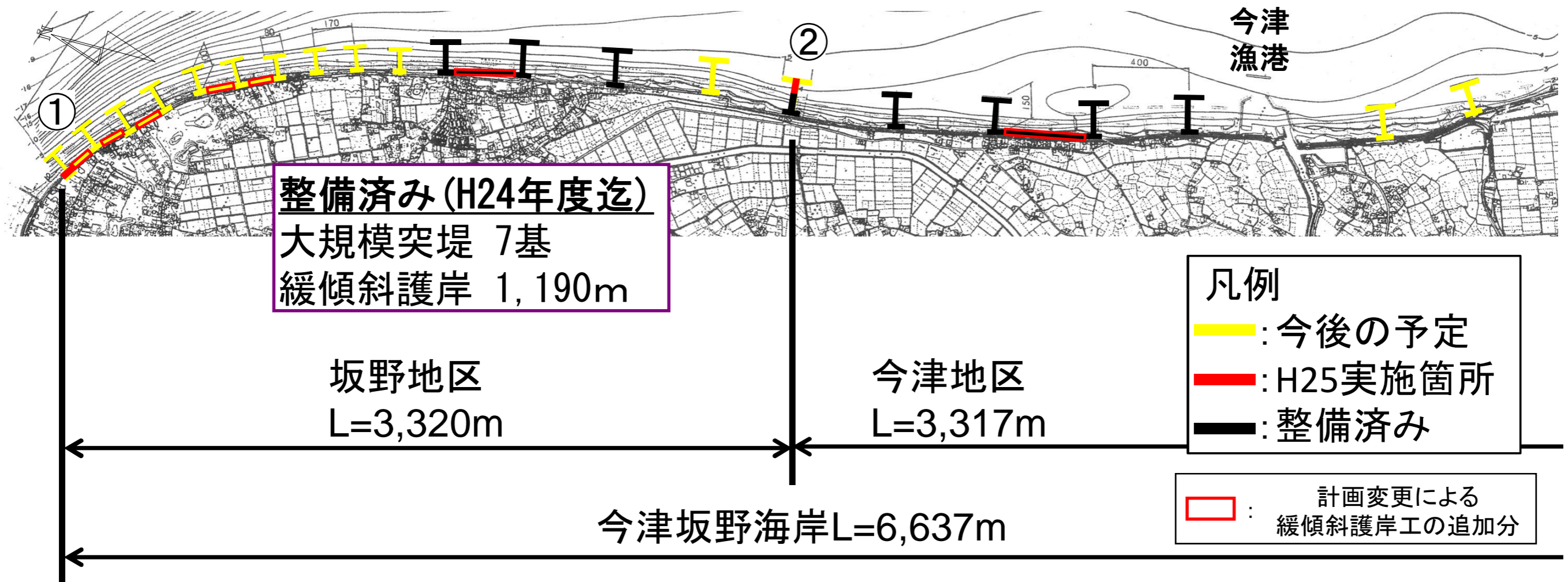


3. 事業の進捗状況

① 既設堤防の老朽化状況



② 今津5号突堤整備中



4. 整備効果

貨幣換算可能な整備効果

【海岸事業の費用便益分析指針によるB/C】

- ・ 土地の消失
- ・ 家屋、事業所等被害
- ・ 農作物被害
- ・ 公共土木施設被害
- ・ 公益事業等被害 など

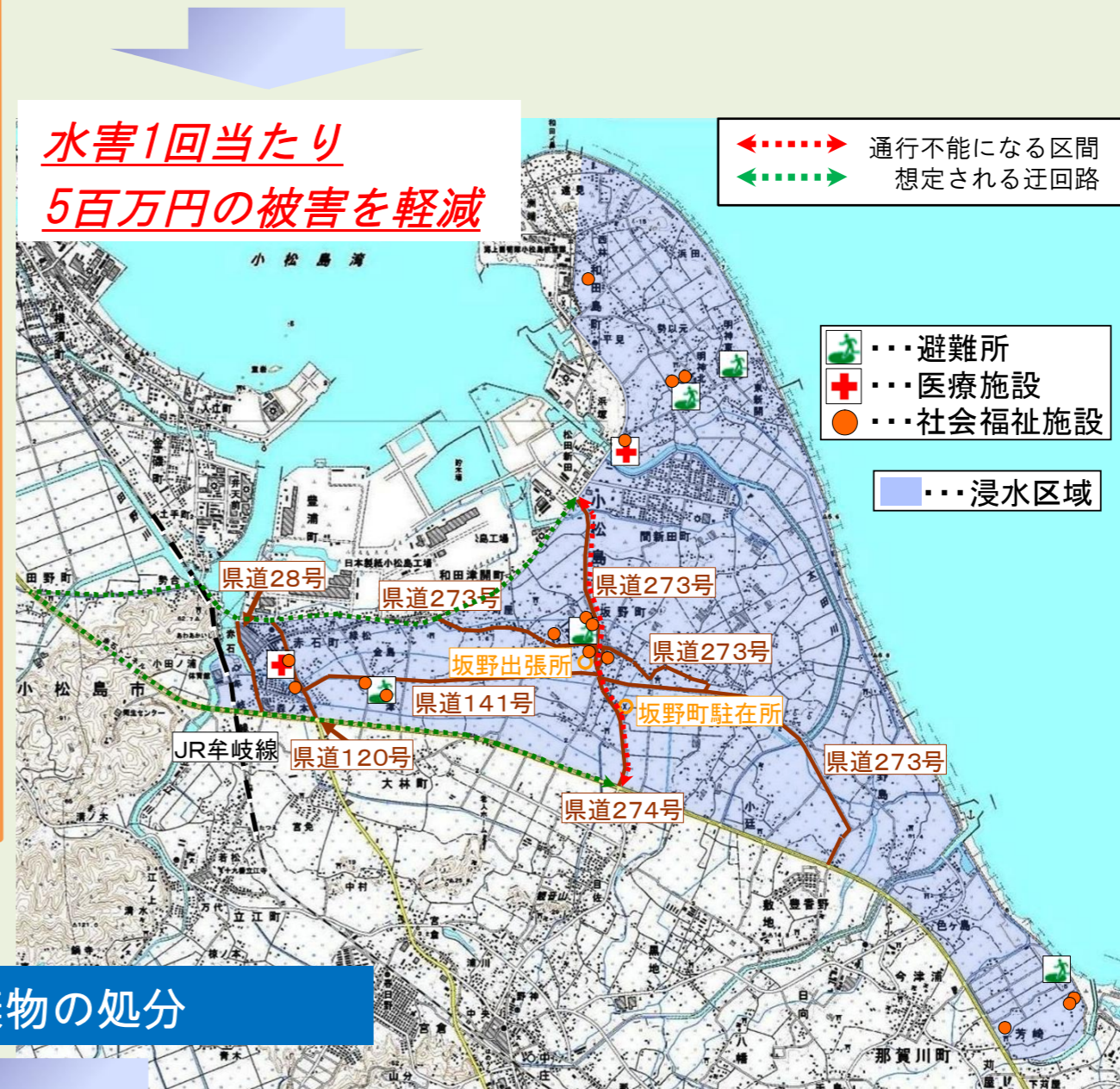
↓ 計
**被害軽減期待額
 = 便益 B
 4,126.4億円**
 (現在価値化後)

費用 C = 290.0億円
 (現在価値化後)

$$\frac{B}{C} = 14.2$$

【「水害の被害指標分析の手引き」による効果】

交通途絶による被害



**水害1回当たり
 5百万円の被害を軽減**

経済被害の域内・外への波及被害

水害1回当たり 27億円の被害を軽減

水害廃棄物の処分

**水害1回当たり
 423百万円の被害を軽減**

**水害1回当たり被害額
 = 30.8億円**

5. 河川整備による多様な効果

貨幣価値に表れない整備効果

人的被害の軽減

浸水区域内人口	9,044人
浸水区域内の災害時要援護者数	2,947人
最大孤立者数	8,508人

医療・社会福祉施設等の機能低下による被害軽減

機能低下する医療施設数	機能低下する社会福祉施設数
2 医院	14 施設

防災拠点施設の機能低下による被害軽減

機能低下する主要な防災拠点施設
小松島市役所坂野出張所，坂野町駐在所
→災害発生時の機能維持

ライフライン停止による波及被害の軽減

電力の停止による影響人口	7,648人
ガス停止による影響人口	6,248人
上水道停止による影響人口	874人
通信(固定)の停止による影響人口	7,791人

→住民生活環境の維持



医療施設



坂野保育所



かもめ保育所

【「水害の被害指標分析の手引き」による効果】



6. 事業評価結果

貨幣換算可能な整備効果

【海岸事業の費用便益分析指針によるB/C】

- ・ 土地の消失
- ・ 家屋、事業所等被害
- ・ 農作物被害
- ・ 公共土木施設被害
- ・ 公益事業等被害 など

↓
計 **被害軽減期待額**
= 便益 B
4,126.4億円
(現在価値化後)

費用 C = 290.0億円
(現在価値化後)

$$\frac{B}{C} = 14.2$$

水害 1 回当たり被害額 = 30.8億円
(交通途絶被害、経済の波及被害、廃棄物の処分費等)

貨幣価値に表れない整備効果

【「水害の被害指標分析の手引き」による効果】

人的被害の軽減

- ① 浸水区域内人口の減少
- ② 浸水区域内災害時要援護者数の減少
- ③ 浸水区域内最大孤立者数の減少

医療・社会福祉施設等の機能低下による被害軽減

- ① 機能低下する医療施設数
- ② 機能低下する社会福祉施設数

防災拠点施設の機能低下による被害軽減

- ① 機能低下する防災拠点施設数

ライフライン停止による波及被害の軽減

- ① 電力の停止による影響人口
- ② ガス停止による影響人口
- ③ 上下水道停止による影響人口
- ④ 通信の停止による影響人口

■ 今後の対応方針 (案)

事業継続